

平成22年3月31日現在

研究種目：基盤研究（C）  
 研究期間：2006～2009  
 課題番号：18560632  
 研究課題名（和文）  
 豊臣政権の都市政策として捉えた平入り志向の景観形成に関する研究  
 研究課題名（英文）  
 Study on Formation of Hira-iri Oriented Townscape as City Policy by Toyotomi Government  
 研究代表者：宮本雅明（MIYAMOTO Masaaki）  
 九州大学大学院・芸術工学研究院・教授  
 研究者番号：80128115

## 研究成果の概要（和文）：

本研究は近世都市に卓越する平入り志向の景観形成が、空間や社会の大規模な再編を目指した豊臣政権の都市政策の一環をなしたという仮説の論証を目指したもので、妻入り志向と平入り志向の町並みがモザイク状に分布した地域を対象として、両者の多様性に富む町並み形成の過程を具体的に解明するとともに、近出史料に基づいて近世都市における景観形成を先導した豊臣政権の都市政策の実相を把握した。

## 研究成果の概要（英文）：

This study aimed at the proof of the hypothesis that the hira-iri oriented townscape which excelled in the pre-modern city did the part of the city policy of the Toyotomi government which aimed at the spatial and social large-scale reorganization. I intended for the area where tsuma-iri oriented townscape and hira-iri oriented townscape were distributed over in the shape of a mosaic, elucidated the formation process of those townscape concretely and grasped the real facts of the city policy of the Toyotomi government which led the townscape formation in the pre-modern city based on the new historical materials.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
平成18年度	1,000,000	0	1,000,000
平成19年度	900,000	270,000	1,170,000
平成20年度	900,000	270,000	270,000
平成21年度	500,000	150,000	650,000
総計	3,300,000	690,000	3,990,000

## 研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学 建築史・建築意匠

キーワード：平入り町家、妻入り町家、豊臣政権、都市政策、日本海沿岸、北部九州

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 近世都市の成立において重要な役割を果たした豊臣政権が、景観レベルにおいていかなる都市政策を展開したかについては、二階建町家の建設や軒高の揃った町家建設を

奨励したことが断片的に知られるのみで、空間や社会まで見通した確かな知見が得られていない。中世都市の大規模な空間的・社会的再編を達成した豊臣政権の都市政策は、都市民が暮らす舞台である日常の都市景観、と

くに町並み景観レベルにおいても顕現したはずである。この日常の生活世界である町並み景観レベルにおいて、豊臣政権の都市政策はいかにして中世都市から脱皮した景観を達成したのか、この点を明らかにしない限り、日本における近世都市の成立を十全に解明したとは言い難い。ただし、この豊臣政権の都市政策を景観レベルにおいて把握するには、文献史料や絵図史料に依拠した景観復原、考古資料や地籍資料に依拠した空間復原では方法論上の限界があり、新たな方法を模索する必要がある。

(2) 一方、日本の伝統的な町並み景観は、周知のごとく平入り町家が連なる町並みと妻入り町家が連なる町並み、さらに両者が混在する町並みによって特徴付けられる。この平入り志向の町並みが京都を中心として広がり、近畿の一部から北陸の一部、中国の一部、九州や東北を中心とした縁辺部では妻入り志向の町並みが広がること、多くの町並みにおいて近世を通じて妻入り志向から平入り志向へ転じたことが知られ、近年では京文化に対する憧憬が妻入り志向から平入り志向への転換を促したとの見解も提示されている。

(3) だが、妻入り志向が顕著とされる九州や中国では、妻入り志向の町並みと平入り志向の町並みはモザイク状の分布を示し、京文化への憧憬だけではその分布を説明することはできず、さらにその分布を丹念に読み解くと、豊臣系の大名による支配が貫徹した領国では、平入り志向の町並みが早くに成立し、在地系の大名による支配が貫徹した領国では、妻入り志向の町並みが継承される傾向が見出せる。とくに秀吉が建設した名護屋城下町では、平入り志向の町並みが「肥前名古屋城屏風」に描かれ、その影響を受けた呼子や唐津でも平入り志向の町並みが早くに成立した一方で、鍋島領である伊万里では妻入り志向の町並みが存続している。

(4) これらの分布に断片的に知られる豊臣政権の景観政策、すなわち軒高の揃った二階建町家の建設奨励策を重ね合わせることによって、豊臣政権の平入り志向の景観政策の存在を仮説として提示することができる。

## 2. 研究の目的

(1) 本研究は近世都市に卓越する平入り志向の景観形成が、空間や社会の大規模な再編を目指した豊臣政権の都市政策の一環をなしたという仮説の論証を目指す。

(2) 妻入り志向の町並みと平入り志向の町並みの地域分布を近世初頭さらに中世まで

遡って復元的に把握し、近出の遺構資料や文献・絵画史料の再検討を通して豊臣政権の都市政策に関して再検討を加えることによって、既往研究の成果も踏まえつつ社会から空間、さらに日常の生活世界が展開した景観までを貫く総合的な観点から、豊臣政権の都市政策の実相に迫ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

(1) 先に記した研究目的を達成するため、本研究では以下の3つの方法によって研究を進めた。妻入り町家と平入り町家がモザイク状に分布する地域を取り上げ、①遺構調査に基づく景観形成過程の検討を進めること、②既往研究成果の現地踏査による確認と再検討を進めること、③豊臣政権の都市政策における空間形成と景観形成の統括的把握を進めること。

(2) ①については、平入り志向と妻入り志向がモザイク状に分布する九州・山口地域を取り上げ、平入り志向の町並み景観を形成した都市として、豊臣系大名が建設した豊後森、豊臣政権が直轄で建設した名護屋の影響を受けたと見られる肥前呼子を取り上げ、町家建築の遺構調査に基づいて平入り志向の景観形成の実相を把握した。

(3) ②については、妻入りから平入りに転じた陸奥塩竈、筑前青柳、長門佐々並市、平入りから妻入りに転じた周防鹿野を取り上げ、既往研究が指摘する妻入りから平入りへの転換では説明し得ない多様な景観形成のプロセスが存在することを確認した。

(4) ③については、グローバルな視点から豊臣政権に始まる近世初頭日本の都市政策を捉え直すととともに、豊臣政権下の都市として重要な位置を占めながら、その実態が不明であった金沢について、空間と景観の形成の過程について実相を把握しつつ、豊臣政権の都市政策について、都市の世界史と通有する研究視角の構築を試みた。

## 4. 研究成果

(1) 3の①に関する成果は後掲5の図書①に示され、豊臣政権の支配下に入った九州において、秀吉配下の毛利高政が中世城郭を継承しつつ建織豊系の城郭として文禄期の建設になる角牟礼城下に成立した森城下町の町並み空間の形成過程について、城下町の建設も、これまで慶長期に入部した来島氏によって建設されたとする説を批判的に検証し、毛利氏の時代に遡ること、来島氏は角牟礼城に入城せず、城下に陣屋を構えたこと、元和期に至って陣屋廻りに武家地を整備したことを明らかにするとともに、町並み景観の形

成過程について、城下に残された町家建築の遺構調査をもとに検討を加え、近世には竹瓦葺屋根を戴く平入り志向の町家が建設され、明治期以降、平入り志向の居蔵造町家が登場することを明らかにした。

(2) 上記3の①に関する成果は後掲5の図書②にも示され、豊臣政権の直轄下に建設された名護屋の廃絶後、東隣の湾沿いに成立した呼子の町並み空間の形成過程について、地籍資料、絵図史料、寺社の成立由来、地名伝承などを照合しつつ総合的に検討を加え、湾の入口近くの八幡神社門前に成立した先方町と海士町の漁村集落を基点としつつ、小倉からの願海寺移転に伴って門前に小倉町成立、願海寺移転に伴って新町の成立、跡地に御茶屋建設に伴う中町の成立、西念寺移転に伴う宮町が成立、中尾鯨組創業に伴う松浦町が成立し、湾奥に向かって海岸沿いに段階的に町並みが成立したことを明らかにするとともに、町並み景観の成立過程について、遺構調査及び文献史料・絵図史料に基づいて検討を加え、妻入り志向の漁村集落を基点としつつ、名護屋城下に展開した平入り志向の板葺屋根を戴く町家の系譜を引いた平入り志向の棧瓦葺屋根を戴く町家が近世中期には成立し、近代に至るまで連綿と建設され続けたことを明らかにした。

(3) 上記3の②に関する成果は後掲5の学会発表⑧に示され、仙台の外港都市として機能した塩竈について、中世から近世への港町の空間形成の過程を明らかにし、天文期の住人を書き上げた『留守分限帳』に見える有姓者が住む「塩竈町」と無姓者が住む「塩竈新町」のうち、後者が近世の二井町に転じたこと、これを手がかりとして天和期の絵図史料「松島眺望集」に見える町割と照合することによって、戦国期の二元的構造を克服しつつ近世塩竈の一元化された均質空間が、湾岸に成立した大河岸町を中心として形成されたこと、そこには塩竈を描く都市景観図「塩竈松島図屏風」に見え、現存する町家が示す平入り志向の町並みではなく、明治期の古写真に見える妻入り志向の町並み景観が成立したことを明らかにした。

(4) 上記3の②に関する成果は後掲5の学会発表③にも示され、平入りくど造りの茅葺き屋根を戴く町家が建ち並んだ筑前青柳について、周囲に展開する平入り農家に起源とする既往研究の説に対して批判的検討を加え、その根拠とされた現存する平入り町家が二棟を併合したもので、当初は妻入り志向の鍵屋で、座敷増築に伴ってくど造りに転じたこと、元禄期の「青柳町軸帳」に記された梁間と桁行、角屋を示す「かき」の記述の

再解釈、航空写真に見える町並みの屋根形状の読み取りを通して、青柳では妻入り寄棟造の茅葺き屋根を戴く町家が祖型をなすものであること、間口規模に応じて表と裏の下手に角屋を出すことによって平入り志向の町並み景観が形成されたこと、これが北部九州の茅葺き町家に共通する発展過程であることを、佐賀城下町に関する既往研究を踏まえつつ明らかにした。

(5) 上記3の②に関する成果は後掲5の雑誌論文①と学会発表②④⑤に示され、平入り志向の町並み景観を形成した佐々並市と妻入り志向の町並み景観を形成した鹿野市について、佐々並市は萩往還の宿駅機能、すなわち宿泊・商業・運輸機能を担う宿駅として慶長期に建設された計画都市、鹿野市は近在の農村が余剰生産物を売り捌くために市立てを計画した商業機能を担う市町として貞享期に建設された計画都市であること、ともに平入り茅葺き屋根を戴く農家型の町家を起源としつつも、その後の展開によって、佐々並市では表に店の間を付加し、鹿野市では奥に座敷を付加し、いずれも妻入りの茅葺き屋根を戴く町家を形成したが、鹿野市では市商人に提供した妻入りの茅葺き屋根を戴く長屋が独立し、全体が妻入り志向の町並み景観を形成したのに対し、佐々並市では農家型の町家も建設され続け、明治期以降、妻入り茅葺町家が平入り瓦葺町家に転じた結果、平入り志向の町並み景観が形成されたことを明らかにした。

(6) 上記3の③に関する成果は後掲5の学会発表⑦に示され、近世都市が段階的に形成されながらも、均質性を志向した一体的な都市空間を形成したこと、そこに平入り志向の景観が形成されたことを論じたもので、豊臣政権下に城下町として建設され、面的街区を形成した日田豆田町、奥深い湾を取り巻く線的街区を形成した的山大島神浦を取り上げ、その段階的空間形成の過程、すなわち豆田町では当初成立した上町通沿いの線的街区に並行する下町通沿いに街区が拡大することによって面的街区を形成し、神浦では当初湾奥の山際の陸側に成立した奥行の浅い宅地を有する線的集落の海岸を埋め立てによって鯨組の屋敷と工場が建設され、廃業に伴う跡地再開発によって浜側に奥行の長い宅地が形成され、この結果、両側町をなす線的街区が形成され、移転した漁家が湾入口に片側町を形成し、陸側に漁家に起源する町家、浜側には商家に起源する町家の2類型が成立したことを明らかにするとともに、いずれの場合も平入りを志向する瓦葺屋根を戴く町家が建ち並ぶ町並み景観が近世後期には形成されたことを明らかにした。

(7) 上記3の③に関する成果は後掲5の学会発表⑥にも示され、16世紀末から17世紀初頭にかけて、日本都市の空間と社会の展開過程を、権力構造における多元性から一元性への転換、社会構造における共同性から公共性への転換、経済構造における管理交易から市場交易への転換、空間構造における求心性から均質性への転換、景観構造における象徴性の確立とその衰退というグローバルな視点から捉え直したもので、共同性・多元性・管理交易に彩られた16世紀の日本都市が、豊臣政権の都市政策によって一元性・求心性・象徴性を志向する都市の成立を促したこと、徳川政権下の17世紀には、均質性・公共性・市場交易を志向した都市への転換として捉えられること、そこに成立した町並みの空間と景観は一貫して均質性を志向したことを明らかにし、そこに求心性を志向する豊臣政権下に平入り志向の町並み景観が形成される余地を見出せることを指摘した。

(8) 上記3の③に関する成果は後掲5の学会発表①と図書①にも示され、豊臣政権下に建設されながら絵図の残される寛文期以前は空間形成の過程が詳らかではなかった金沢を取り上げ、大手門先に当たる前田長種系屋敷跡において検出された新出の考古資料、慶長2年に遡る町名が記された文献史料「本願寺門徒誓詞」、既出の慶長期の景観を描いた絵図史料「加賀国絵図」の再解釈によって、豊臣政権下の慶長期には大手に当たる尾坂下に天守を見通す中町を基軸とし、縁辺に寺町を配した面的街区を惣構にて圍繞した城下町が成立し、豊臣政権下に建設された城下町に備わる空間的特質、すなわち縦町型町割、縦町型ヴィスタ、面的街区、総郭型という諸類型として分別される都市プランが達成されていたこと、徳川政権下の元和2年及び寛永大火後に実施された都市改造によって、徳川政権下に建設された城下町に備わる空間的特質、すなわち横町型町割、横町型ヴィスタ、線の街区、内町外町型という諸類型として分別される都市プランへ転じることを明らかにするとともに、豊臣政権下では惣構の外に武家地を配し、徳川政権下では直臣屋敷を惣構内、陪臣屋敷を惣構外に配する特異なプランをなし、絵図に描かれた寛文期の複合的構成の城下町が形成されたこと、そこに平入り志向の町並み景観が成立したことを指摘した。

(9) 以上の研究報告において、豊臣政権下に建設された城下町では、求心性を志向する全体プランを形成しつつも、面的街区を形成した町人地は均質性を志向した空間を形成し、そこには平入り志向の町並み景観を誘導し

た都市政策が遂行された可能性のあること、これらの都市政策は主として城下町において遂行され、在方の港町や市町では地域の社会と経済の達成状況、屋根材や地割に規定されつつ技術的要因から妻入り志向と平入り志向の町並み景観が形成され、平入りから妻入り志向へ、また妻入りから平入り志向へ転じた例もあり、きわめて多様性に富む町並み形成の過程が見出せること、茅葺き屋根を戴く町家が建ち並ぶ場合は、妻入り志向と平入り志向の町並み景観に、さして都市政策上の相違は見出せないことが露わとなった。

(9) 研究成果の詳細については、5に掲げた各研究報告を参照されたい。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

①麻生由季・宮本雅明「萩往還佐々並市・明木市の空間形成と機能配置—防長市町の空間と機能に関する研究(1)」(『日本建築学会計画系論文集』646号、pp.2717-272、2009年12月)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/40016854275>

〔学会発表〕(計8件)

①宮本雅明「日本の城下町と金沢城下町」(第2回城下町金沢学術研究会、金沢市文化センター、2010年3月)

②麻生由季・宮本雅明「周防国鹿野市の空間構成と建築構成：防長市町の形成と機能に関する研究(3)」(第49回日本建築学会九州支部研究報告会(計画系)、長崎総合科学大学、2010年3月)

③中野力・宮本雅明「唐津街道青柳宿の景観復原：元禄5年『裏糟屋郡青柳町軸帳』再考」(第48回日本建築学会九州支部研究報告会(計画系)、琉球大学、2009年3月)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007132907>

④麻生由季・宮本雅明「萩往還佐々並市の空間構成と建築構成：防長市町の形成と機能に関する研究(2)」(第48回日本建築学会九州支部研究報告会(計画系)、琉球大学、2009年3月)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007132909>

⑤麻生由季・宮本雅明「萩往還佐々並市・明木市の成立と機能：防長市町の形成と機能に関する研究(1)」(第48回日本建築学会九州支部研究報告会(計画系)、琉球大学、2009年3月)

<http://ci.nii.ac.jp/naid/110007132911>

⑥宮本雅明「16～17世紀日本都市における空間と社会の展開」(日本建築学会大会(中国)建築歴史・意匠部門研究協議会『グローバルな視点からの16～17世紀日欧比較都市史研究の可能性』広島大学、2008年9月)

⑦宮本雅明「日本近世都市における段階的  
空間形成と都市建築の諸相」(日本建築学会都  
市史小委員会シンポジウム『都市と建築シ  
リーズ一個と全体』建築会館、2007年12月)

⑧深田和裕・宮本雅明「中近世移行期の塩竈  
における都市空間の展開過程」(『日本建築学  
会大会(九州)学術講演、福岡大学、2007年  
8月) <http://ci.nii.ac.jp/naid/110006643173>

[図書] (計3件)

①宮本雅明・大森洋子・赤松有希『豊後森城  
下町一玖珠町森城下町伝統的町並み保存対  
策調査報告』(94pp.、大分県玖珠町教育委員  
会、2010年3月)

②宮本雅明「日本の城下町と金沢城下町の位  
置づけ」(『金沢の文化的景観(城下町の伝統  
と文化)保存調査報告書』金沢市、pp..56-74、  
2009年7月)

③宮本雅明・大峯美穂・他『港町呼子一唐津  
市呼子町伝統的町並み調査報告書』(本文  
68pp.、呼子町文化連盟、2009年3月)

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

宮本 雅明 (MIYAMOTO MASA AKI)  
九州大学大学院・芸術工学研究院・教授  
研究者番号：80128115

### (2) 研究協力者

麻生 由季 (ASO YUKI)  
九州大学大学院・芸術工学府・学生  
赤松 有希 (AKAMATSU YUKI)  
九州大学大学院・芸術工学府・学生  
大峯 美穂 (OMINE MIHO)  
九州大学大学院・芸術工学府・学生  
中野 力 (NAKANO RIKIYA)  
九州大学・芸術工学部・学生